

事業報告

事業名	令和3年度第5・6回屋久島研究講座	事業体系	環境学習事業
期 日	令和3年12月4日(土) 13:30~17:30 12月5日(日) 13:30~18:00		
場 所	屋久島環境文化村センター レクチャー室 京都大学 永田 オンライン (ZOOM)		
対象者	すべて	参加者数	第5回(12/4) 現地24名オンライン97名 計121名 第6回(12/5) 現地22名オンライン96名 計118名
<p>1 概 要</p> <p>(1)第4回 令和3年12月4日(土) 13:30~17:30 テーマセッション1 「琉球弧につらなる世界自然遺産：屋久島、奄美・沖縄」 地質・地史：安間了(徳島大学) 植物・植生：相場慎一郎(北海道大学) 爬虫両生類：太田英利(兵庫県立人と自然の博物館) 鳥類：西海功(国立科学博物館) 昆虫：山根正気(元鹿児島大学) コメンテータ：星野一昭(NPO法人日本国際湿地保全連合)</p> <p>(2)第5回 令和3年12月5日(日) 13:30~17:30 テーマセッション2 「日本の世界自然遺産の現状と課題ー知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美・沖縄をむすぶ」 総説：吉田正人(筑波大学) 知床：中川元(知床自然大学院大学設立財団) 白神山地：中静透(森林総研) 小笠原：可知直毅(東京都立大学) 屋久島：湯本貴和(京都大学) 奄美・沖縄：小高信彦(森林総研九州支所) コメンテータ：田中俊徳(九州大学) 奥田直久：(環境省)</p> <p>2 アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序が良く地質学から植物学、動物学の幅で幅が広過ぎかと思いきや、どれも繋がりがあつても良い勉強となつた。 ・スタジイの植生から渡瀬線が分布の境ではないということ。鳥は種によつて分布のラインがバラバラであること。 ・世界自然遺産の屋久島でガイドをしていく上での責任感を改めて実感しました。 ・これからは世界遺産を増やしていくのではなく、登録された世界遺産の価値を維持することに集中する時期に来ている。まったく同感です。 <p>※ 屋久島町エコツーリズム推進協議会登録ガイド更新条件の対象となっています。</p>			
資料等	なし		